

警察でも男女共同参画が浸透

# 山形県警察 女性警察官

ドラマでよく見かける女性警察官。山形県でも女性警察官が増えています。しかし警察といえば、危険と隣り合わせの仕事。男性が中心というイメージはいまだ根強いでしょう。女性警察官の活躍状況について、山形県警でお話をうかがいました。

出迎えてくださったのは、凛々しい制服に身を包んだ、警務部警務課の渡邊晃子さん。山形県警で女性警察官が働くための環境整備を担当されています。

**県警には何人の女性警察官がいますか？**

山形県警には128人の女性警察官がいます。これは山形県警全体の約6.4%に当たります。平成35年までに約200人(約10%)にしていくこととしています。平成4年まで、山形県警には女性警察官は1人もいませんでした。私が採用された平成14年当時、女性は少数派でした。10年くらいで倍に増えているので、すいぶん増えたという印象です。



警務部警務課 渡邊晃子さん

**なぜ女性警察官を増やしているのですか？**

犯罪や事故が多様化しており、女性が必要とされる仕事、女性にしかできない仕事が増えています。たとえばストーカー、DV、性犯罪被害に遭った女性が相談に来て、男性警察官には言いにくいこともありますよね。また、犯罪被害者の心のケアに当たる時も、女性警察官の方が丁寧寄り添える部分があります。

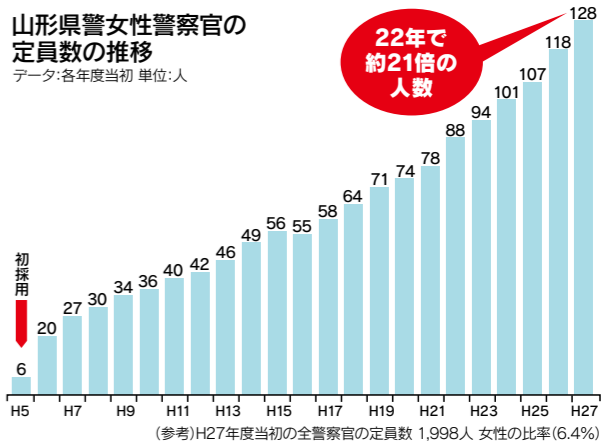
**結婚・出産後も続けられる仕事ですか？**

はい。出産や育児のために利用できるいろいろな制度があります。山形県警にも子どもを持つ女性警察官が39人いますが、こうした制度を利用しながら仕事と育児を両立しています。私も3歳の息子を育てながら仕事をしています。育児中の職員が希望すれば、時間外勤務や夜勤がないように配慮されるなど、仕事をしながらでも子育てができる環境となっています。山形県警としても、出産・育児で女性警察官が退職してしまうと、戦力を失うことになります。職場復帰してもらおうとメリットは大きいのです。

**男性社会と思われる警察ですが、女性が働きやすい職場でしょうか？**

昇任制度に男女の区別はありません。現在、山形県警には女性の警部(警察署の課長等)が4人、警部補(係長)が8人います。女性の上司が男性の部下を率いている部署もありますよ。設備面でも女性専用の設備が年々充実しています。山形県内の交番における女性用トイレの整備率は92.3%で、これは全国一位となっています。市民のみなさんの安全を守る警察官は、女性にとってもやりがいのある仕事だと思います！

山形県警女性警察官の定員数の推移  
データ：各年度当初 単位：人



## 現場の女性警察官のみなさんにもお話をうかがいました

「科捜研の女」は山形にもいた！

刑事部科学捜査研究所 大石佳奈さん

山形県警の科学捜査研究所(科捜研)で2人目の女性専門職員として、昨年度採用されました。科捜研は、事件現場に残された遺留品を科学的に分析する役目です。毛髪や体液のDNA型鑑定などもその一つ。仕事は鑑定資料を取り違えないようにと神経を使いますし、分析には忍耐も必要です。しかし、ずっと憧れていた仕事に就くことができ、毎日が充実しています。

科捜研にはすでに女性の先輩がいたので、女性職員の人数が少なくても戸惑うことはありませんでした。いずれは自分の研究テーマを見つけて、学会などで発表できる機会に恵まれるといいですね。



山形県警初の女性白バイ隊員 横山裕子さん

交通部交通機動隊

平成27年4月に白バイ隊員を拝命しました。交通安全の広報活動や駅伝の先導を担当しています。

実はこれまでバイクに乗った経験もなく、白バイ隊員を希望していたわけではありませんでした。しかし交番で勤務をしていた頃、交通事故の悲惨さを目の当たりにしたことがきっかけで、悲惨な交通事故を減らす仕事に携わりたいと考えるようになりました。

白バイ隊員は重さが300キロ以上あるバイクを、自分で支えられなければ務まりません。男性に比べ体力的に大変な部分もあり女性には過酷な仕事ですが、「私も白バイ隊員になりたい」という女の子に出会って、自分が県警初の女性隊員になれたことを誇りに思います。



元気ハツラツ女性お巡りさん 奥山若菜さん

山形警察署駅前交番 奥山若菜さん

昨年2月に駅前交番に配属されました。駅前の繁華街ということもあり、観光客への地理案内、落とし物、泥酔者の対応など昼夜を問わず忙しい交番ですが、やりがいがあります。

交番勤務は地域の方々と密接に関わることができる仕事です。防犯広報などのために各ご家庭等を訪問する巡回連絡は、いろいろなお話を聞かせていただいて、その地域をより深く知るための良い機会です。「来てくれてありがとう」など声をかけてもらえたときは、「警察官になってよかった」と心から思います。

将来の夢は刑事になることです。特に、女性を狙った犯罪の防止と検挙そして、被害者の不安を少しでも軽減できるよう、努力していきたいと考えています。



取材を終えて

男性社会だと思っていた警察で、女性警察官増員のための環境整備が進んでいることに驚きました。いつの日か「女の子の憧れの職業1位=警察官」という時代が来るかもしれませんね。

(編集協力員 渡邊園美)